

青森商業（旧制）の速記部が私の歓迎会を開いてくれたときでした。各学生がいろいろなことをして見せていたとき、葛西君という学生が突然立ち上がったのです。葛西君は平素あまり物を言わない学生だったようですが、その葛西君が突然立ち上がったので、みんな何をやりだすかと思っていたそうです。そういう中で葛西君は立ち上がると、「中根先生に青商の校歌をお聞かせしたいと思います」と言い終わるや、「青商立て！」と大きな声で号令をかけたのです。そうして私に青商の校歌を聞かせてもらったのですが、「青商立て！」と言った声は今も耳に残っているのです。

彦根中学（旧制）の学生達が「感激」という機関誌を出していましたが、「速記成らずんば死すともやめじ」と言う。これを高知に行つて話すと、高知の学生たちが彦根に負けるものかといつて、「速記成らずんば死ぬまでやるぞ！」と言う。更に鹿児島に行つてこのことを話すと、鹿児島 학생들이彦根や高知に負けるものかといつて、「速記成らずんば七度生まれて速記を学ばん！」といつて各地の学生たちが誠に熱狂でした。

感激寮

私の旗印の言葉「感激」という言葉を使って東京に感激寮を建て、全国の速記部の生徒を集めて泊まら